

作成日 2019年5月27日
改訂日 2022年4月5日

製品安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品	炭酸プロピレン、(Propylene carbonate)
供給者の会社名称	アーク株式会社
住所	大阪市北区西天満3-10-3
電話番号	06-6809-5970
FAX番号	06-6809-5975
推奨用途及び使用上の制限	芳香族化合物、ポリマー等の溶剤、染色固定剤、重合用乳化助剤、消泡剤、腐食防止剤、防水化工剤、分散剤、有機合成中間体、鋳物鋳型配合剤、土壌硬化剤原料、不純ガス吸収剤、リチウム電池用電解液、コンデンサ溶媒

2. 危険有害性の要約 GHS分類

JIS Z 7252、7253:2019 使用

物理化学的危険性	火薬類	区分に該当しない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	可燃性エアゾール	区分に該当しない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高圧ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	区分に該当しない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性液体	区分に該当しない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過酸化物	区分に該当しない
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分に該当しない
	急性毒性(経皮)	区分に該当しない
	急性毒性(吸入:ガス)	区分に該当しない
	急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入:粉じん)	区分に該当しない
	急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2A
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分に該当しない

水生環境有害性 長期(慢性) 区分に該当しない

GHSラベル要素
絵表示又はシンボル注意喚起語
危険有害性情報
注意書き警告
強い眼刺激

【安全対策】

取扱い後はよく手を洗うこと。
適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼に入った場合、眼の刺激が続く場合は医師の診断、手当てを受けること。

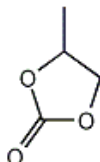
【保管】

データなし

【廃棄】

データなし

国・地域情報

3. 組成及び成分情報
化学物質化学名又は一般名
別名プロピレンカーボネート
4-メチル-1, 3-ジオキソラン-2-オン、(4-Methyl-1,3-dioxolan-2-one)、2-オキソ-4-メチル-1, 3-ジオキソラン、(2-Oxo-4-methyl-1,3-dioxolan)分子式(分子量)
化学特性(示性式又は構造式)C₄H₆O₃(102.09)CAS番号
官報公示整理番号(化審法・安衛法)108-32-7
(5)-524

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

データなし

濃度又は濃度範囲

100%

4. 応急措置

吸入した場合
皮膚に付着した場合気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
水と石鹼で洗うこと。

目に入った場合

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
口をすすぐこと。予想される急性症状及び遅発性症状
最も重要な兆候及び症状
応急措置をする者の保護気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
データなし
データなし
データなし

医師に対する特別注意事項	データなし
5. 火災時の措置	
消火剤	泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状放水、水噴霧
特有の危険有害性	熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。 激しく加熱すると燃焼する。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは、移さない。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。 環境中に放出してはならない。
環境に対する注意事項	不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。
回収・中和	
封じ込め及び浄化方法・機材	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	技術的対策
	局所排気・全体換気
	安全取扱い注意事項
保管	接触回避 技術的対策 混触危険物質 保管条件 容器包装材料
	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 眼に入れないこと。 データなし 消防法の規制に従う。 データなし 容器を密閉して冷乾所で保管すること。 データなし
8. ばく露防止及び保護措置	
管理濃度	未設定
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	
	日本産衛学会(2007年版) ACGIH(2007年版)
設備対策	未設定 未設定 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
保護具	作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。 適切な呼吸器保護具を着用すること。 適切な保護手袋を着用すること。 適切な眼の保護具を着用すること。
衛生対策	適切な保護衣を着用すること。 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
9. 物理的及び化学的性質	

物理的状態	形状 色 臭い pH	液体 無色透明 無臭—果実臭 データなし
融点・凝固点		-48.8°C : Ullmanns(E) (6th, 2003)
沸点、初留点及び沸騰範囲		242.1°C : Sax (11th, 2004)
引火点		130°C (c.c.) : IUCLID (2000)
自然発火温度		約435°C : IUCLID (2000)
燃焼性(固体、ガス)		データなし
爆発範囲		1.8 ~ 14.3 % : IUCLID (2000)
蒸気圧		11.3Pa (25°C) : Ullmanns(E) (6th, 2003)
蒸気密度		データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)		データなし
比重(密度)		1.2047 (20°C) : Lide (88th, 2008)
溶解度		水 : 214g/L : IUCLID (2000) アセトン、ベンゼン、クロロフォルム、エチルアセテート : 混和 : HSDB (2003)
オクタノール・水分配係数		log P = 0.017 : IUCLID (2000)
分解温度		データなし
粘度		2.76mPa s (20°C) : IUCLID (2000)
粉じん爆発下限濃度		データなし
最小発火エネルギー		データなし
体積抵抗率(導電率)		データなし
10. 安定性及び反応性		
安定性		法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性		データなし
避けるべき条件		データなし
混触危険物質		データなし
危険有害な分解生成物		データなし
11. 有害性情報		
急性毒性	経口	ラットLD50の報告が3件あるが、いずれも29000mg/kg 以上(IUCLID (2000))である。
	経皮 吸入	ウサギLD50値>20000mg/kg (IUCLID (2000))との記載による。 吸入(ガス) : GHSの定義における液体である。 吸入(蒸気) : ラットの試験で死亡例なし(PATY (5th, 2001))の報告があるが、ばく露濃度の記述が不明であり、データ不足により分類できない。
皮膚腐食性・刺激性		吸入(ミスト) : データなし ウサギの試験で軽度の刺激 (slight irritant)(PATY (5th, 2001))、及びウサギの試験 (OECD Guide-line 404) で刺激性なし(IUCLID (2000))との記載による。
眼に対する重篤な損傷・刺激性		ウサギの試験で中程度の刺激性 (moderate irritant)(PATY (5th, 2001))、及び他のウサギの試験 (OECD Guide-line 405) で角膜混濁 = 1.72、結膜発赤 = 2.67で刺激性(irritating)(IUCLID (2000))との報告に基づく。
呼吸器感受性又は皮膚感受性		呼吸器感受性: データなし 皮膚感受性: ヒトのパッチテストで感受性なし (notsensitizing) (IUCLID(2000))との報告があるが詳細は不明であり、データ不足により分類できない。
生殖細胞変異原性		in vivoのデータが無く分類できない。尚、In vitro試験(エームズテスト、染色体異常試験)で陰性 (IUCLID (2000))の報告がある。
発がん性		データなし
生殖毒性		データなし
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)		データなし

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	<p>モルモット、イヌの21日間の吸入ばく露試験でガイダンスの区分2に該当する2.8mg/L/6h(90日換算値:0.65mg/L/6h)の用量で影響なしの報告(IUCLID(2000))、ラットの21日間の吸入ばく露試験のガイダンスの区分2に該当する2.8mg/L/6h(90日換算値:0.65mg/L/6h)の用量で荒い呼吸、下痢がみられたとの報告がある。またラットに1ヶ月間経皮投与した試験で、皮膚の過角質化、基底細胞の増加が認められたの報告があるが投与量等の詳細は不明である(いずれも(IUCLID(2000)))。いずれもガイダンスの範囲内での影響が明確ではない事から分類できないとした。</p>
誤えん有害性	データなし
12. 環境影響情報 水生環境有害性 短期(急性)	<p>魚類(コイ)での96h-LC50>1000mg/L、甲殻類(オオミジンコ)での48h-EC50>1000mg/L、藻類(Scenedesmus subspicatus)での72h-EC50>900mg/L(3試験ともIUCLID, 2000)より区分に該当しないとした。</p>
水生環境有害性 長期(慢性)	<p>急速分解性があり(28日でのBOD分解度=79%、GC分解度=89%(既存化学物質安全性点検データ, 1993))、急性分類が区分に該当しないことから、区分に該当しないとした。</p>
13. 廃棄上の注意 残余廃棄物	<p>廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。</p> <p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。</p>
汚染容器及び包装	<p>容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p> <p>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。</p>
14. 輸送上の注意	<p>該当しない</p> <p>該当しない</p> <p>該当しない</p> <p>消防法の規制に従う。</p> <p>該当しない</p> <p>該当しない</p> <p>移送時にイエローカードの保持が必要。</p> <p>食品や飼料と一緒に輸送してはならない。</p> <p>漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。</p> <p>重量物を上積みしない。</p>
緊急時応急措置指針番号	
15. 適用法令 海洋汚染防止法 消防法	<p>有害液体物質(Z類物質)(施行令別表第1)</p> <p>第2条危険物第4類、第三石油類非水溶性液体危険物等級Ⅲ</p>
16. その他の情報 参考文献	各データ毎に記載した。